

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和5年11月27日(2023.11.27)

【公開番号】特開2022-2662(P2022-2662A)
【公開日】令和4年1月11日(2022.1.11)
【年通号数】公開公報(特許)2022-003
【出願番号】特願2020-108176(P2020-108176)
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

【FI】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 3 2 Z

10

【手続補正書】
【提出日】令和5年11月16日(2023.11.16)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項1】

20

始動口への入球に基づいて図柄の変動表示を行い、該図柄の変動表示の結果として大当り図柄が停止表示されることで大当り状態に制御可能な遊技機において、

前記始動口に遊技球が入球した場合に、該入球に関連した計数値を更新する計数値更新手段と、

前記計数値が特定値になることに基づいて、前記大当り状態とは異なる特定状態に制御する特定状態制御手段と、

30

当該遊技機の電源が投入される際に当該遊技機を初期化可能な初期化手段と、
を備え、

前記初期化手段は、

前記計数値と当該遊技機の状態の一方を初期化する場合と、前記計数値と当該遊技機の状態の両方を初期化する場合と、があって、

電源投入操作としてラムクリア操作が行われた場合には、所定のラムクリア処理によって当該遊技機の状態が初期化されるものであり、

電源投入操作として前記ラムクリア操作が行われた場合だけでなく、前記ラムクリア操作が行われていない場合にも、前記計数値が初期化可能とされる

ように構成されており、

40

さらに、前記計数値更新手段は、前記始動口とは別の所定の入球口に遊技球が入球した場合にも前記計数値を更新可能であり、

さらに、前記計数値が前記特定値になる前の所定値となることに基づいて、該特定値に近づいていることを示唆する事前表示を行う

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0004
【補正方法】変更
【補正の内容】

50

【 0 0 0 4 】

しかしながら、遊技機に様々な機能が付加されることでホール側での取り扱いも複雑になってしまい運用の難しさを招いてしまうという問題があった。

【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 7 】

上記した目的を達成するために、請求項1に係る発明においては、

10

始動口への入球に基づいて図柄の変動表示を行い、該図柄の変動表示の結果として大当り図柄が停止表示されることで大当り状態に制御可能な遊技機において、

前記始動口に遊技球が入球した場合に、該入球に関連した計数値を更新する計数値更新手段と、

前記計数値が特定値になることに基づいて、前記大当り状態とは異なる特定状態に制御する特定状態制御手段と、

当該遊技機の電源が投入される際に当該遊技機を初期化可能な初期化手段と、
を備え、

前記初期化手段は、

前記計数値と当該遊技機の状態の一方を初期化する場合と、前記計数値と当該遊技機の状態の両方を初期化する場合と、があって、

20

電源投入操作としてラムクリア操作が行われた場合には、所定のラムクリア処理によって当該遊技機の状態が初期化されるものであり、

電源投入操作として前記ラムクリア操作が行われた場合だけでなく、前記ラムクリア操作が行われていない場合にも、前記計数値が初期化可能とされる

ように構成されており、

さらに、前記計数値更新手段は、前記始動口とは別の所定の入球口に遊技球が入球した場合にも前記計数値を更新可能であり、

さらに、前記計数値が前記特定値になる前の所定値となることに基づいて、該特定値に近づいていることを示唆する事前表示を行う

30

ことを特徴とする。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 8

【 補 正 方 法 】 削 除

【 補 正 の 内 容 】

40

50